

(改訂原本)

「声あげ」

第2版

Is it true ?
Ver.2

物書き

うときゅういっき



(改訂原本)

「声あげ」

第2版

Is it true?

Ver.2

うときゅう いっき

目次

- 序

(本編)

- 「義憤？」

- 「安心安全？」

- 仕事観 1

- 仕事観 2

- 仕事観 3

- 自覚なき日本語の重圧

- お察しされてどうするの？

- 1次情報、2次情報

- なんかズレてない？

- 形、型、過多？

- 見落とされていた前提

- 而してその実態は？

- 友達みたいな？

- 夫婦寸景 in Japan now

●「妥協の産物」がとばっちりの元？

●生産者と消費者 1

（職場では生産者、家では消費者。同じ人の表裏）

●生産者と消費者 2

（同一表裏分断の怪）

●生産者と消費者 3

（表裏一体の断を止めるもの誰もおらず）

●インテリ然と？

●意外なサバイバル要諦の元 1

（食わず嫌いすべからず。マーケティングの元は軍事兵法に在）

●意外なサバイバル要諦の元 2

（現代マーケティング、逆の弊害）

●意外なサバイバル要諦の元 3

（軍事兵法はサバイバル術の粹）

●in front of our restaurant 1

●in front of our restaurant 2

●in front of our restaurant 3

●Have you ever been

●要再考「坊主憎けりゃ袈裟まで憎い」？

●shame

●恥と外聞

●怯え、無理からず

2022/3/10

序

(発端)

今の常識、当たり前、善と思っている事が
却って我々の未来をつぶしていやしないか？
という素朴な「疑問」から書いてみました。

(本編)

2022/2/15

「義憤？」



2009 年春。

リーマンショック直後の地元新百合ヶ丘の駅前を歩いていて突然ある異変に気がしました。

若いカップルが肩を寄せ合うのではなくどの組も皆手を繋いで歩いている。

仲睦まじいというよりは何か腕の幅だけお互い近づけぬ様に距離を置いている様にも見える。

若いお母さんがベビーカーに子供を乗せて先頭を切って歩き旦那さんがその後をすごすごと刑場に惹かれる罪人でもあるかの様に付き従って歩いている。そこかしこで

そして小さな子供が人中に立っていると「お邪魔になるからこっちへおいで」ではなく火のついた様な勢いで「危ないからこっちへ来てなさい」と子供を怒鳴りつける光景。

いつの間に無垢の通行人の方が悪者扱いされる様になったのだろうか？

他にも誰かが落としたマフラーを誰も拾い上げもしないし交番や駅の係員にも届け出なままいつ迄も駅のコンコースに放置された状態になっている。

マフラーならまだしも是が人だったらどうなるのだろうか？人にも同じ様な振る舞いをするのだろうか？

それらの光景と疑問が非常に短時間の間に交互に生起し

「どうなってんの？何が起ってんの？」

と驚かされた経験がありました。

実感としてはまさに「浦島太郎」の心境。

暫く駅に來ない間に何もかもが変わってしまった様な。

しかもそれは地元駅近傍だけの光景ではありませんでした。

その後あちこちで同じような光景が。

それで思ったのは

「是は個別の例外的な話ではないな。是だけ広範囲に尚且つ各階層の人々が老弱男女を問わず同じ様な傾向になっているのには何か共通した原因がある筈だ」

と思う様になりました。

そして爾來 13 年。

偶然にも英語を話す生活となり、その中で逆に古の日本や日本語そのものを振り返る機会を得てみると、今推奨されている英語教育が反対に増々国民をしゃべれなくしている教育であり、日本古來よりある様式美へ傾倒が増々度を過ぎて細分化されている事に気づき

「是では幾ら何でも辛かろう」

と、つい先頃迄人々に感じていた怒りや敵意が薄れていくのを感じました。

「そういった事が原因で結果皆が重苦しい気持ちになっている。皆本当は悪気がある訳でもなく人間そのものが悪い訳でもない。

単に何か妙な思い込みをさせられているか勘違いをしているだけなのではなかろうか？

皆良かれと思ってやっている事が却って悪さをしてしまっている不幸、不具合、不合理」

良かれと思ってやっている事。そうする事、それに従う事が良い事であり有効な事だという常識。

実はそれが

「常識の罠」

その看過（見過し）こそが不幸の始まりであり原因なのではなかろうかと。

「疑う余地のない常識こそが疑わしいくはないか？」

本シリーズではその具体例や、

ならばそれをどうすればいいのか

を考えていきたいと思っております。

もしそれが本当に原因ならそれを紐解くだけでもかなりの重苦しさが改善されるかもしれませんので。

2022/2/16

安心、安全？



今コロナ禍でよく耳にした言葉

「安心、安全」

是だけ見れば「当然」の二文字が出てきます。

誰も疑いようのない確たる概念。

思うに言葉というのは無意識にその反対（又は対立）概念を想定或いは連想してそれに対してその言葉の評価がなされているような処があります。

例えば「安心、安全」であれば無意識に想定しているのは「危険、危機」であるといった具合に。

当然人は危険や危機は恐ろしく感じますので「安心、安全」は尤もな概念であると。

しかしもし対立概念ではないにせよ「安心、安全」から想起される言葉が「過度に」という注釈がつくものの「過度の安心、安全」即ち「過保護」や「温室育ち」だとしたら「安心、安全」に対する評価や印象は大分違ってきそうです。

そうして更にそこへ「過度の安心、安全」の追求は「耐性の低下」即ち「サバイバル能力の低下」を齎すかもしれないという「安心、安全」の負の側面を当ててみると一層「安心、安全」を金科玉条に唱えてばかりもいられない様な気がします。

他にも「若者と老人」といった場合に若者＝活力、成長、老人＝凋落、衰退を一般的には対語として連想しておりますが、例えばそれとは違った観点から若者＝未熟、経験不足に足して老人＝成熟、経験豊富という見方もできますので、その見方からすれば、それらに対する評価や印象ががらりと変って参ります。

ところが最近この後者の図式に対して「それが成り立っていないのではないか？」という疑問を抱き始めました。

何の事かと申せば

果たして「今の」老人は若者に対して「成熟、経験豊富」といえるのだろうか？という疑問です。

その疑問の元となったのは以下の式でした。

知識X経験＝智慧。

若者は頭が柔軟なので知識をどんどん吸収する。その吸収能力は老人より遥かに高い。例えばインターネット操作やITに関する知識吸収能力。

しかしそれだけでは不十分だし又老人の存在意義もなくなってしまうので老人に活路があるとすればそれは経験数の多さと知識と経験をかけ合わせた末に生まれる智慧の多さや深さであるというのが定説なのですが、その定説に対して自分が疑問を抱いたのは

「果たして今の老人達は経験が豊富であったのだろうか？それに伴う智慧が備わっているのだろうか？」

という誠に失礼極まりないものでした。

というのも今の老人達は若い頃から「過度の安心安全」指向の中で育ち只管リスク回避に明け暮れる余りある意味リスクの塊である「経験」の機会を逸し続けてしまった為に生存年月に比例すべき「経験数」が圧倒的に不足し智慧が蓄積されてこなかったのではなかろうかと。

若者は老人に聞いても有用な経験話が得られない。老人は聞きに来られても経験に裏打ちされた話のストックが少ないので結果逃げ腰になる。

それが世代間断絶の深層なのでは？

観察からは高学歴な老人程その傾向が顕著な様な気もしております。

2022/2/16-2

仕事観 1

	平均	日本	米国	英国	フランス	ドイツ	デンマーク	フィンランド	スウェーデン
経済の成長率	2.24%	0.73	1.97	1.70	1.30	1.26	1.28	1.39	2.18
賃金の伸び	1.38%	0.09	0.96	0.93	1.03	0.90	1.18	0.91	1.59
労働生産性	58.27ドル	48.14	74.19	61.27	67.60	66.94	75.41	61.37	70.64
所得格差	0.31	0.33	0.40	0.37	0.29	0.29	0.26	0.27	0.28
貧困世帯の割合	11.0%	15.7	18.0	12.4	8.4	9.8	6.4	6.5	9.3
教育への投資	10.6%	7.8	11.5	11.7	8.5	9.2	11.4	9.7	12.0
男女の平等	0.76	0.66	0.76	0.78	0.78	0.80	0.77	0.86	0.82
社会の腐敗度	0.58	0.64	0.70	0.46	0.57	0.46	0.18	0.19	0.24
他者への信頼度	214.1	-62.0	223.5	376.8	205.4	173.1	521.3	420.2	522.2
健康寿命	70.7歳	74.1	66.1	70.1	72.1	70.9	71.0	71.0	71.9
治安	1.67	1.35	2.23	1.73	1.93	1.65	1.28	1.35	1.48
失業率	5.98%	2.53	5.21	3.87	8.48	3.44	5.26	7.27	7.16
幸福度	6.80	6.12	7.03	6.80	6.71	7.31	7.52	7.89	7.31

うつ病罹患時代に今思い返しても辛くなる事が4つありました。

一つ目は頭の中の整理整頓が全くつかなくなってしまった事。

二つ目は、上記が原因なのだと思いますが自分に自信がまるで持てなくなった事。

三つ目は、自信のなさを見抜かれない為（役に立たない事がバレない様にする為）に嘘をついて逃げ回ってばかりいた事。

そして最後に、仕事が回ってこないのです。事がなく又できもしないので暇で暇でしょうがなかった事です。

特に四つ目はその余りにも辛い経験が自分の後半人生に大きな影響を与えました。

「暇ほど人間を腐らせるものはない」

その実感から定年後の人生設計を真剣に考える様になりました。勿論うつ病が回復してからです。只、回復して後まず手を付けたのがそれでした。

「退職後に生き生きと暮らすためには在職中に何をしたらいいか？」

それで在職中から自分の職務以外の仕事も進んで引き受け会社で色んなノウハウとスキルを身に着ける事に専念しました。何せタダですから。

前置きが長くなりました。

数か月前ある表が偶然目に留まりました。

記事をメモらなかったので出自と表の題目は分かりませんが

多分先進主要国の経済と国民の心理状態を指標化したものだと思います（チャートだけはダウンロードしておきました）

まずその表で目に留まったのは先進主要国の中で我が国は

上の項目から順に申し上げますと

経済成長と賃金の伸びが低い。

その原因は労働生産性が低い。

貧富の格差は相対比で余り大きくない。

男女の平等もマスコミが言うほど開きがない。

ところが

他者に対する信頼度となるとほかの国が全てプラスの数字なのにわが国だけはマイナスである事（初め数値の絶対値だけ見て低いなとは思いましたが、前にマイナスの符号がついているのを見付けて唖然としました）

そしてまたところがです、

健康寿命だけは他の国に比して高い。

以上のプラスマイナスを経て幸福度は何故か各国並みになっておりました。

「努力している割には仕事が空回りして成果に結びつかず給料も上がらない生活」

簡単に言うと金回りが悪い。

「半面家族を含めてなのか赤の他人に対してだけなのかは分からないが人をまるで信用していない。上辺だけ仲のいい当たり障りのない範囲での生活」

言ってみれば仮面生活。

ところが

「体だけは元気。寿命はどんどん延びている」

謂わずと知れた長寿大国。

金回りが悪い中での仮面生活。それでも体だけは元気な長寿大国での生活を幸福だと感じている我々。

「お金もなく腹を割って話す相手もないのに長生きだけはして暇を持て余し、時間潰しのあれこれを考えるも考えるだけで何もせず結局は更に又日毎に暇地獄の地獄度合いが高まっていく」実態。

本当に幸福なののでしょうか？何を指して幸福と言っているのでしょうか？

「不幸」と書くと差し障りがあるので最後だけヤケクソで「幸福」に○をつけたのでしょうか？

（続く）

2022/2/16-3

仕事観 2



うつ病だった頃

「同じ病でも骨折とか胃潰瘍の方がどんなに良かったろう。うつ病以外だったら何でもいい。うつ病だけは勘弁してほしい。お願いだから病をチェンジしてくれ」と何度も思った事がありました（当該患者の方には大変失礼ですが）

同じ様に

「給料は相当額減ってもいい。だけどここの暇地獄だけは勘弁してくれ」と思った事も何度かありました。

会社につけば「退出まで後残り何時間何分」と時計ばかりを見る日々。

手が動いていないと仕事をしている様には見えないので、譬えて謂えば「あいうえお」と「いろはにほへと」を何回もキーボードで打って仕事をしている振りをする日々。

そして人が近づいてくると慌てて画面上のシートを最小化して隠す日々。

その虚しさと惨めさからくる不安と恐怖と後悔。

それ位うつ病と暇地獄は辛かったのです。

「うつ病と暇地獄にならない為なら何でもするよ」

それが本音でした。

「小人閑居して不善を為す」とは言いますが将に「悪事にでも手を染めかねない」状態でした。

なので「定年退職後の暇」が怖くてならなかったのです。

「暇を感じさせない様にするには思いっきり忙しい方がいい」

そんな思いもあってむしろ過酷な条件の仕事を無意識に探す様な処もありました。

「難しければ難しいほどいい。目標は遠ければ遠い程いい。困難であればあるほど解決に時間がかかればかかるほど暇潰しには有効だ」

そんな経歴の持ち主である自分は殊更「他人の暇事情」にも敏感になった様です。

その目を持って街を歩いてみると「忙しさのアリバイ作り」または「忙しさの演出」

それを逆に言えば「暇を悟られない為の隠蔽工作、カムフラージュ、演技、こじつけ」がそこかしこで散見されました。

例えば駅前のカフェテリア。

本当に読書するだけが目的なら余程家の方が落ち着くしお茶やコーヒーも飲み放題で好きな時に飲めると思うのですが、白髪交じりの方々は皆駅前のカフェテリアにお越しになる。そうしてまず半日はそこでお過ごしになる。時々考え事をしたり何やら口の中でぶつぶつ独り言をいい、突然何かを発見したように大きく頷いたりなさる。

果たしてそれを家の中でもやっておられるか？と申せば自分の読書スタイルからするとまず有り得ない。

となれば、わざわざカフェテリアに来て迄する読書の目的は、その姿を見せる事か、もう少しがった見方をすればその姿を誰かに気づいて貰い

「何やら真剣に考え込んでおられますね。何をお悩みですか？」

と声をかけて貰う事。

要するに「結構忙しいんだな」と周りに印象付ける事の様な。

というのも自分自身がうつ病で仕事から炙れていた時にしたのがこの「忙しさのアピール」というか「アリバイ作り」だったからです。

周りにはバレバレなのに結構必死にやっていた「それ」

やっているのは決まって男性。女性はやっていない。

何故なら家事で忙しいから。

では次に家の中ではどうでしょう？

(続く)

2022/2/16-4

仕事観 3



旦那様が朝から家の前の掃き掃除をしておられる。男仕事で雑なのかと思いきや結構丁寧にしておられる。長い時間をかけゆっくりと隅々迄。まるで現役時代の役員会議資料を作る様な仕事ぶりで反論の余地を与えぬ様に微に入り際に渡り何度もチェックしながら。

中から奥様の声がする。

「それが終わったら次は」

と二、三指示が飛ぶ。

奥様は結構おめかしして

「忙しいの、私。後はお願いね」

とお出かけになる。

お出かけになった後旦那様が何をなさっているのかは外からは伺い知れない。

或いは自分がドラッグストアに買い物に出かけると

白髪だらけの非力そうな旦那様が両手一杯の荷物を抱えておられるのに奥様は手伝う様子もなく一人先に外に出、後ろの様子を振り返る事なくトットと歩いて行かれる。その背中には「グズが目立つじゃない。恥ずかしいから離れてよ」と書かれている。

しかしいずれの場合にも旦那様は何もおっしゃらない。

その背中には

「機嫌を損ねて捨てられたら大変」

と書かれている。

或いはスーパーに出かけると

奥様が買った品物を後ろでレジ籠を下げている旦那様の籠に着地点を確かめる事すらせずにポンポンと投げ入れる。後ろに立っている旦那様を見ると受け損ねては一大事とばかりにおどおどしている。

見え隠れするのは「兎に角機嫌を損ねぬ様。事を荒立てて熟年離婚にならぬ様。同じお墓に入ってもらえる様に」という怖気ばかり。

殺生与奪の権は全て奥様が握っている、の感是有。

それにしても何でこんな事になっているのか？

「仕事観の縛り」から。

多分。

現役時代の仕事観は「まずは給料を持ってくる」事。食い扶持の元。

旦那様も奥様もお子様も皆同じ認識。

一方同じ現役時代からも「無償の仕事」というものもありました。意外と気づかぬものですがそれは「家事」

家事に対してお給料を支払っておられた旦那様は殆ど皆無でしょう。

ではお給料を戴けない「家事」というものは仕事ではないのかと申せば是は間違いなく「仕事そのもの」

となればお給料は戴けないが大変役に立っている「仕事」というものもある訳です。

変な話「家事」という無償の仕事をしていた奥様が、旦那様が定年後「お給金を持ってこなくなった」というだけで「役立たず」扱いするのは矛盾している様な気がします。

だとすれば「お給金を運んでこない仕事」というものが定年後の旦那様にもあっていい筈。

そしてそれを旦那様のみならず奥様が評価してもいい筈です。

もしお給金を持ってくるのだけが仕事だという「縛り」が解け、持ってこない「手弁当の仕事」例えば社会奉仕も「ウチの旦那の立派な仕事」と「納得」される様になれば旦那様方はもっと自信が持て奥様方も旦那様が「粗大生ごみ」には見えなくなるのではないのでしょうか。

そうならば今迄見向きもしなかったものの中に暇を解消し世の役にも立つ様な「就ける仕事」がゴロゴロあった事に気づく事になるかもしれません。

2022/2/17

自覚なき日本語の重圧



pixta.jp - 2342345

「日本に来たんだから日本語喋るのが当たり前でしょ」

よく耳にする言葉です。

我々が普段使い慣れている言語、日本語が「精緻さ」という点で如何に優れた言語であり、逆にそれを新たに学ぶ外国人の立場に立ってみれば、如何に難しい言語であるかを我々日本人はもっと「自覚する必要」がある様な気がしております。

一例を上げれば我々が何気なく使い分けている

漢字、カタカナ、平仮名の区別。

そして漢字を当用漢字 1600 としてカウントし、それだけに限っても三種類の合計が凡そ 1700 にもなる現実。つまり英語のアルファベットなら 26 文字覚えれば済む処を基本語ですら優に 1000 を超えているという事。

そして特に同じ漢字でも音読み、訓読みなど読み方の違いがあり、尚且つ外国語では余り数の多くないチラリ、ズンズン、ピッカピカ等の擬音表現が山程ある事実。

数字でも一つ、二つ、三つの他にひい、ふう、みい、や単純に一、二、三の使い分け。

後ろで修飾される物によって、お皿なら一枚、二枚と「枚」だったり、物干し竿だったら一竿、二竿と「竿」になったりと矢鱈と細かい数え方の変化。

敬語でも尊敬語、謙譲語、丁寧語の違い

男言葉と女言葉の使い分け。

外国人が日本語を学ぶにあたって

現在形、過去形、未来形と未然、連用、終止、連体、仮定、命令形以外に上述の様な事を学ばなくてはならない、その「上述部分」の負荷の気の遠くなる様な重みに我々は気づいていない様な気がします。

「日本に来たんだから日本語を喋れ。喋らないのは失礼だ」

という冒頭のご意見にも一理ありますが相手を慮る気持ちがあるならその相手の苦勞を察するの我々には必要な気がします。

兎に角日本語というのは縦横斜めにマトリクスを組んでチェックを入れるが如く非常に細分化された言語です。

そしてその使い方をちょっとでも誤ると

「KY（空気読めない）」だの「口の利き方を知らん奴だ」だのと叩かれる。

逆に申せば、それらが

「分断」「囲い込み」「分断と囲い込みの固定化」即ち「村社会」と「村八分」意識を醸成している様な側面もありそうです。

それを簡単に一言で申せば「強固な同調強要社会」の元となっている様な。

そしてその元にあるのが古代より我が国文化の中で受け継がれてきた「微に入り際に渡っての飽くなき様式美（矛盾なき前後左右上下、縦横斜めの整合一致性）の追求」からである様な気も致しております。

要するに極めて強固な枠組み。まずは先に「型ありき」「型から入る」そして型の代名詞でもある「肩書（何々をする）の動詞はなく（何々である）の名詞重用）」社会。

であるとすれば我が国国民が優れた言語である反面、同じ言語の上述の如き悪しき副作用から醸成される「一致団結」「全員一丸となって」等の「金太郎飴」「心理的鎖国状態」から解き放たれるには日本語の成立ち、日本人の気質、価値観、美意識から紐解く必要がある様に思います。

2022/2/17-1

お察しされてどうするの？



来日間もないある欧米系外国人が

「日本人てえ皆対人恐怖症か何かなの？」

「えっ？藪から棒に何で又突然そんな事を訊くんだい？」

「だって我々外国人がものを尋ねようと近づいただけでドギマギしたりオロオロしたりするし、人によっちゃ逃げ腰になる人もいるからだよ。だからそうなのかな？と思って訊いたんだ」

「それって、何処での話？」

「何処で？って、この辺。街中」

「ところで君は日本に来てから山登りした事があるかい？」

「あるよ。何で？」

「そこで日本人の登山者とすれ違った事なかった？登りと下りの一本道の山道か何かですれ違いざまに挨拶したり、そこから上の山の勾配がどうだとか君の方から相手に質問したりした事なかった？」

「あったよ。こんにちは。この上の道、もっと大変ですか？って、英語で聞いたことあったよ。日本語で何て訊いていいか分からなかったから、すごく簡単な英語を使って訊いたんだけどね」

「その時、訊いた相手の日本人は一人だった？グループだった？」

「仲のよさそうな二人連れの学生っぽい女の子達だったよ」

「逃げたりしなかった？その娘さん達」

「初めちょっと驚いてもじもじしていたけれど、二人で相談しながら一生懸命上の様子を教えてくれたよ。日本人でもそういう人もいるんだとは思ったな。そういえばあの時」

「確かに逃げ場のない一本道のせいもあったかもしれないし、相手が仲良しの二人組だったせいもあったのかもしれないけど、日本人は街中じゃなければ対人恐怖症傾向は示さないんだよ。

むしろ街中でなければ、そんな事迄してくれなくてもいいのと思う位親切心を示す事の方が多んだよ。老弱男女を問わず、特にその時に日本人が一人の場合にはね」

「えっ？ そうなの？ 何で？」

「我々日本人が恐れているのは目の前で英語をしゃべる君たち外国人じゃなくて、外国人との対応を後ろからこっそり、でも相当辛口の点数でチェックを入れている我々と同じ日本人の目線を恐れているからだよ。だからその目線が少ないか無い山の中だったり、街中でも人通りがない処や仲間内がない処だったりでは結構親切なんだよ」

「ふうん」

「君たち外国人は、例えば異郷の日本で同国人に偶然出会うと知り合いかどうかに関係なく手を振りあったり近づいて行って話を始めたりするだろう？ でも我々日本人は外国で日本人を見かけると大抵は気づかない振りをして道を変えてしまうんだ。何故かといえば異国で羽を伸ばしたいのに、そんな処迄きて国内同様の目線でチェックを入れられるのが怖いからだよ。その可能性があるだけでも、その可能性からすら逃げたいからだよ」

「何でそんな風にその人は感じるんだい？」

「自分が人に何時もそうしているからだよ。だから相手もそうなんだろうって automatically に無意識の連想が働くんだ。きっと。分かった？」

「日本人やるっていうのは。大変なんだね。お察しするよ」

「Thank you so much. Bye, see you later」

2022/2/17-2

1 次情報、2 次情報



「一寸先は闇」

という言葉があります。

一般的な解釈では

「明日は何が起こるかわからない。そして起こるのは大抵悪いこと（凶事）である」

というような意味として、です。

しかしよく考えてみれば、或いは観察してみれば

「明日は何が起こるかわからない。そして起こるのは必ずしも凶事だけとは限らない。信じられない程の慶事の場合もありうる」

つまりその確率がフィフティーフィフティーであるとすれば冒頭の

「一寸先は闇」

の一寸先は闇とも限らないわけですから

「一寸先は未知」

とするのが正しいような気も致します。

おそらく古代の人たちもそのことは分かっていたのだと思います。

では何故「一寸先は未知」を取えて「一寸先は闇」と言い換えたのか？

昨今過度の悲観と過度の自己防御が増える中、上記の言葉では増々その度合いが膨らんで、委縮してしまう可能性が高まります。

なので、今こそ「一寸先は闇」を「一寸先は未知」即ち「突如いいことも起こるかもしれないよ」

と言い換えた方がいいような気もしたので、何で古代の人は敢えてまで「一寸先は闇」と限定した使い方をしたのかが却って不思議になってきたのです。

そこで、その理由を考えてみました。

その末に出てきた以下の解釈は自分の私見なのですが

「その方が、インパクトがあったから」

ではなかろうかと。

未知を「凶事」に限定した方が「注意喚起の度合いも上がるし」と考えての事ではなかったか？とも。

確かにこの場合は、言い方は変ですが意図としては「善意」が感じ取れます。

しかし同じ「インパクト狙い」と「耳に入り易さ覚えやすさ」が「悪意」や、そこまでのいかずとも「恣意」「故意」を含んだ「誘導（弱みや欲に付け込んだおいしい話や引き回し）」に基づいて使用された場合はどうなるのでしょうか？

例えば

歴史を紐解けば「プロパガンダとアジテーションの天才」と言われたヒトラーさんとか、身近な処で言えばメディアや広告宣伝とか。

少なくともネット空間というのは全ての情報が 2 次情報、つまり加工情報です。自分が現実世界でじかに体験して得られる 1 次情報とは全く異なり、必ず「発信者」という名の情報加工者が存在しております。

その事実だけは肝に銘じておいた方がよかろうかともおもっております。

2022/2/17-3

なんかズレてない？



もうだいぶん前になる事件ですが某大手広告代理店の新入女子社員が職場内の暴言と月120時間を超える残業を数か月強いられた後に、その後の未来を迎える事なく自死に至った痛ましい事件でした。

これを機に「働き方改革」の機運が盛り上がり現在の法整備がなされるきっかけになりました。

一方それとは正反対に、特に顧客を相手にするライン部門等では却って働き方改革による時間制限が縛りとなり隠れ残業や持ち帰り残業の横行を招いたり、残業代の減少による家計圧迫を招いたりする負の面も指摘され始めております。

今回は残業代減少の件は一旦おいて、残業時間制限を中心に「働き方改革」について考えてみたいと思います。

それにはまず新入女子社員の自殺の原因を改めてみてみる必要があります。

「まずは原点に返れ」

です。

記事を読み返せば冒頭にした二つの理由が挙げられておりました。

一つは残業時間。

今一つは職場内での暴言。

長期に渡る深残業と周囲からの叱責で心身ともに疲労困憊しているにも拘わらず心無い周囲によって次の様な言葉が浴びせられていたそうです。

「髪の毛位かきつけて来いよ。ボサボサで女子力ないよな」

以前自分もうつ病になりましたがその時の経験から

「人格を認めて貰えない職場には残業はおろか就業時間 8 時間のうちの 1 分たりとも居たくはない」

というのが本音でした。

反対にそれ迄の、ある程度裁量を任して貰え自由闊達に仕事のできた以前の職場環境においては、月 120 時間はおろか 250 時間を超える残業を半年続けても苦にはなりませんでした。むしろ楽しかった位です。

その両極端の経験を元に考えてみますと

「果してこの事件の肝は残業時間だったのだろうか」

という疑問が湧きました。

「残業時間をなくせば解決するのか？」

今一つのお話は

「家事、育児は誰がすべきか？」

という記事についてです。

是も働き方改革の一環で

「男女の性差をなくし男も家事育児をすべきだ」

となり、育休や家事育児の為の残業制限が行われる様になりました。

しかし是も

「男女の性差の解消即ち男女平等の話なのだろうか？」

という疑問が湧いております。

何か大袈裟過ぎる様な気がしたのです。

個別家庭内の話に法律というかお国や自治体迄登場する様な話なのだろうか？と。

自分は男寡の一人暮らしなので、子供はもう成人しておりますので流石に育児はしませんが、仕事の他に炊事洗濯家事掃除、全て自分でなくてはなりません。

「ここ迄は奥さん。ここから先が俺」

等と言っていない身の上です。

手隙は常時一人だからです。

そんな自分からみますと

「その時手の空いている人間がすればいいだけの話じゃないの？」

としか思えないのですが。

相手に愛情があれば少しでも手伝おうという気になるでしょうし、愛情がないない何一つ手伝いたくはないでしょう。

何か二つの話共ピントがずれている様な気がしてならないのですが。

如何でしょう。

2022/2/18

形、型、過多？



伝票の耳を揃えてその左端でホッチキス止めする。

お札の端を揃えて合せがずれない様、又フワつかない様にきちんと折目を付けて押し畳む。

お弁当箱はテーブルの端のラインに対して延長線がそれと交わる事なく平行に置く。

どれもこれも我々日本人にとっては極めて日常的で当たり前の所作なのですが、アジア系外国人従業員と仕事をしているとどうもそれはわが国固有の習慣の様なのです。つまり世界中どこでも通じるグローバルスタンダードではない、と。

そんな事を考えてみた事もなかったので初めは驚き且つ信じられませんでした。むしろちょっと混乱をきたしたといっても過言ではありませんでした。

今は大分慣れましたが、それでも余りに酷いとホッチキスをわざわざ外して揃えなおした上で改めてとめたり、お札も一旦広げ直して皺を伸ばした上で再度きちんと正方形に畳み直したりします。

流石にランチボックスの置き方迄は言いませんが。

それで思ったのですが

「我々日本人の美意識というのは相当なものだな」

と。

例えば、合法的は当たり前。その上に道義的問題もクリアしないと認められない。いやむしろ合法的であるより道義的責任の方が厳しく咎められる傾向がる。

しかしそれだけでもまだ不十分でその上に更に「美的」でないと認められない。いや、歯牙にもかけられない。

「おい、おい、おい、おい、大変な国だな」

何という高いハードル。

これが社会生活のみならず日常生活の隅々に迄行住坐臥行き渡り徹底されている。それができないと一人前扱いされないし、ともすれば容赦なく叩かれる。

一時も気を抜けない緊張状態が常態化している。

「ねえ、ねえ、ねえ、ねえ、少しくらい休ませてよ」

是では型を整えるのが精一杯で整え終わった頃には棺桶に片足を突っ込んでいる様な状態になる程の時間が経ってしまっている。

「一体自分の一生は何だったんだろう？何しに自分はこの世に生まれてきたんだろう？」

そんな疑問を持っても不思議ではないかもしれません。

こうした上で改めて我々の生活を遠目からみると

「型社会。まず型がある。型を先に決める。型を先に決めるから時として中身が歪んでしまう事もある。型より大きなものははみ出さない様に切り取られたり押し込められたり。不定形のものは四角四面にさせられたりもする。

確かに場合によってはいい場合もあるが悪い場合もありそうだ」

という具合に。

もし仮に社会生活である以上どうしても「形（かた）」が必要であるならその形は従来型のサイズからはみ出しても受け入れられ様に常時スケールアップしていかななくてはならないでしょうし不定型を受容できる様に常々変形変容していかななくてはならない様な気がします。

思うに我が国の現在の「かた」はスタイルとしての「形（かた）」ではなく金型、鋳型、型式型番の方の「型（かた）」即ち「押型」（或いは押付け）の方が勝っている様な気がしております。

2022/2/18-2

見落とされていた前提



個人情報保護法というのがあります。

IT 社会が進んで個人情報が盗まれ易くなっている中ではかなり重要な法律です。

しかし幾ら重要な法律だからと言っても限度というのがあります。或いは節操が。

どうも我が国はその辺「度が過ぎる」様で。

例えば病院では個人の病気に関する情報保護の為にでしょうか或いは入院を知られたくない人の情報保護の為に、でしょうか。

それは分かりませんがそれを望む人へはいざ知らず兎に角何でもかんでも情報保護の為に称して

「患者名を読んでではない。番号や記号を付してそれで呼びなさい」

とか

自分が自治会の防犯防災の役員をやっていた時代に

「災害時、電気が使えなくなった場合に備えてのアナログ緊急連絡網（人海戦略網）を作っておいた方がよくはないでしょうか。ついては地元警察や消防の方で音頭を取って戴けないでしょうか」

とお願いした処

「個人情報保護法の絡みでそれはまず不可能でしょう」

と言われた事もありました。

しかし実際に事が起き自らがその渦中に巻き込まれた場合はどうなのでしょう。

実例を挙げれば今コロナ禍でも起きましたが病院が「野戦病院」と化したり、風水害の土砂流で安否確認が取れなくなったりしております。

幸いにも未だ実際には起こっておりませんが巨大地震の発生やミサイルの襲来、それに伴う都市機能はじめ現代インフラ機能の麻痺が起こったらどうすればいいのでしょうか？

例えば一刻を争う野戦病院の中で個人名を呼ばれていたら自分だとわかり、速やかに対応できて命拾いできたが別の人は番号で呼ばれた為に自分だと分からずタイミングを逸して命を落とす羽目になってしまった。

それで、もしこの「度を越した」個人情報保護法の「度を越した部分」を強力に主張し推進した当事者がこういった状況の渦中に立たされる羽目陥った場合に「仮に」の話ですが野戦病院化した病院の看護師が

「その緊急患者が度を越した部分の制定主導者だとは当然知らぬまま」いつ迄経っても呼ばれない事に業を煮やしたその御仁から

「いつになったら俺の名前は呼ばれるんだ。いつ迄経っても呼ばれないじゃないか」と言われたとします。

するとその看護師は患者リストをめくり

「あら、もうお呼びしましたよ。No12345さん、て。何回も」

「アホ、名前と呼ばれねば己の番だと分からんだろうが」

別に嫌味で書いたものではありません。いざ自分の身に降りかかるとなると話が変わってくる、の例でも、恥ずかしい奴の実例紹介でもありません。

申し上げたかったのは

「仮に善意に基づいての提案だとしても、それがいかなる前提の下に為されているのかの認識こそが大切」

という事です。

つまりこの場合においては、

「常に平時を前提としていた」

という認識が欠け

その対語

「戦時（緊急事態時）」

の想定欠落こそが問題であった。

故に戦時想定の下

「過度の部分の抑制を欠いていた」

の認識改めをすればよいのではないかと。

後の為に。

2022/2/19

而してその実態は？

	平均	日本	米国	英国	フランス	ドイツ	デンマーク	フィンランド	スウェーデン
経済の成長率	2.24%	0.73	1.97	1.70	1.30	1.26	1.28	1.39	2.18
賃金の伸び	1.38%	0.09	0.96	0.93	1.03	0.90	1.18	0.91	1.59
労働生産性	58.27ドル	48.14	74.19	61.27	67.60	66.94	75.41	61.37	70.64
所得格差	0.31	0.33	0.40	0.37	0.29	0.29	0.26	0.27	0.28
貧困世帯の割合	11.0%	15.7	18.0	12.4	8.4	9.8	6.4	6.5	9.3
教育への投資	10.6%	7.8	11.5	11.7	8.5	9.2	11.4	9.7	12.0
男女の平等	0.76	0.66	0.76	0.78	0.78	0.80	0.77	0.86	0.82
社会の腐敗度	0.58	0.64	0.70	0.46	0.57	0.46	0.18	0.19	0.24
他者への信頼度	214.1	-62.0	223.5	376.8	205.4	173.1	521.3	420.2	522.2
健康寿命	70.7歳	74.1	66.1	70.1	72.1	70.9	71.0	71.0	71.9
治安	1.67	1.35	2.23	1.73	1.93	1.65	1.28	1.35	1.48
失業率	5.98%	2.53	5.21	3.87	8.48	3.44	5.26	7.27	7.16
幸福度	6.80	6.12	7.03	6.80	6.71	7.31	7.52	7.89	7.31

再び先進国の経済と心理状況の指標を見てみましょう。

健康寿命だけは高い数値を示す中で経済と収入の指標は全く上がらず尚且つ他者に対する信頼度においては調査国平均 214 に対して 62 と絶対値が低い上に何とその前にマイナス記号がつくというわが国（単純計算でその開き $214 - (-62) = 276$ ）

ところが同じ表の中で幸福度に関しては先進各国と大差がない。

又あの東日本大震災という未曾有の災害に遇い、炊き出しで命を繋ぐ状況下に於いてすら列を乱す事なく整然と並んでいる姿が世界各国から称賛された。

「？」

何なんです、この差は。

本当はどちらなのでしょう？

その差の間に何が起きているのでしょうか？

悪い言い方をすれば「どんなカラクリがある」のでしょうか？

仮に前者の表の数字（幸福度以外）を内部の実情と見做し、後者の外での姿、それが我々日本人の一般的行動だとすると後者には常時相当な無理が掛かっている事が推測されます。

因みに covid-19 襲来初っ端のカナダのスーパーでは買い占めに走ったお客さん同士があらび順の件で喧嘩を始め、一方の女性客が他方の女性客に飛び蹴り食らわす映像がネットに流れておりました。

それを見て店の外国人従業員は

「Japanese は yappari very sugoi ne。外国人みんな Baka mittai」

と言っておりましたが。

話を元に戻しましょう。

別にお上から「海外メディア向けにそう振る舞え」と言われた訳では決してない。

仮に自分が炊き出しに並んだとしてその時の気持ちになってみると

「緊急時だからと言って取り乱すのはみっともない」

「それにこんな時取り乱したら後で周りから何を言われるか分からない。喰いッパグれるよりそっちの方が余程怖いわ」

「用心するに越した事はない。周りに合わせておこう」

となりました。

自分の中の「美意識」と周りからの「人の目」圧力の複合体。

換言すれば「内外（うちそと）からの縛り」

とでも申しましょうか。

ふとこんな言葉が過ぎりました。

「武士は食わねど高楊枝」

「隣は何をする人ぞ」

「壁に耳あり障子に目あり」

「抜き足差し足忍び足」

思わずブルッと来ました。

大昔からそうだ。

「衣食足りて礼節を知る」とは言うが、どうも

「衣食足りぬ場合でも、いや足りぬ場合にこそ礼節を知るのが人の道」

という二転三転もひとつオマケにもう一転。

裏の裏、更に又その裏の「美の奥義」が我々の心底奥深くに横たわっている。

最早「そもそもの初めは何だったのか？」さえ分からなくなる程のコンガラガリ様なのだが間違いなく厳然と横たわり我々を司っている様だ。

苦難の中、このハイレベルな礼節を守り抜き、しかも「身体髪膚是を父母に受く。敢えて毀傷せざるは孝の初め也」を地で行くが如くに健康そのもの。

故に「襤褸は着てても心は錦。どんな花より奇麗だぜ」を柱に「清く正しく美しく」なので「幸福度はトップクラス」

という事なのでしょうか（幸福度は中高年層中心の回答？）

将に

「物は言い様」

魔術レベル？かもしれません。

2022/2/20

友達みたいな？



「友達みたいな親子」

「友達みたいな夫婦」

「友達みたいな上司」

「友達みたいな先生」

と耳にする度に

「ああ、又言ってらあ」

とうんざりしておりました。

というのも若い頃からそれこそ星の数程も「おなごさま」にアタックして、返事の 99.9% が

「お友達でよければ」とか「お友達としてなら」とか「お友達でいましょうよ」とか「お友達」と言われ尽くめの人生だったからです。

簡単に申せば「体よくあしらわれた」という事。

で、この場合の「お友達」の意味はこれ又率直に申せば

「本気になれないの。はっきり言って」

の一言でしょう。

一方冒頭での「友達みたいな」の意味する処は

「率直な」「肩肘張らない」「垣根のない」

といったニュアンスでしょう。

同じ「率直」でも方や好意的。

方や拒否的。

むしろ「肩肘で囲って垣根を高くされた」之感、是有です。

「んっ？」

（内心の声：好意的なら「友達みたいな」はそれでいいんじゃないの？

「お友達でいましょう」の話は関係ないと思うんだけど）

初めは自分もそう考えました。

冒頭の「友達みたいな」に自分が抱いていた感想は

いう側にとっては「自分の都合のいい様に済し崩している」

謂われる側になって想像してみると「自分は鷹揚な（おおらかな）人間である」事のアピールになるという宣伝効果抜群のカードゲット。

その魂胆が余りにも見え透いているのでうんざりしていたのですが最近どうやらこの「友達みたいな」が「お友達でいましょうよ」に近くなってきている様な気がしてきたのです。

それで後段の話を添えた訳です。

どういう事か？ご説明させて戴きます。

手短に申し上げますと「冒頭で言う処の友達関係はもはや存在していない」のではなかろうかという事です。その疑念を抱いたから後段の話が出てきた。

つまり現代の友達関係の実態は最早後段の

「肩肘で囲って垣根を高くしている」

事でしかなくなっているという見立てです。

話は変わりますが若い頃出張で三日間程英国に滞在した事がありました。

その折スタンドカフェだったかどこだかに行った際、自分がドアを開けて入ろうとすると前に入った英国の老紳士が見ず知らずの東洋人である自分の為にドアをわざわざ半開きにして待っていて下さったのです。

「Thank you so much, sir」

自分は驚き感動してそういうと

「No problem, sir」

の言葉と共に少しユーモラスな仕草を交えて返して来たのです。

その時浮かんだ言葉が Friendly でした。

邦訳は「友達みたいな」ですがそれよりももっと垣根のない温かさを感じました。

何故ならそこには「損得勘定が全く感じられなかった」からです。

友達というのは元来損得勘定外の関係だった筈なのに最近では「損得勘定そのもの」になっている。

男と女の立ち位置関係も然り。

「その性差による魅力誇示」より「性差を薄めてケガをせぬ様にする」ものに。

「本気になれないの」

ではなく

「本気になると困るから」

の様な。

世の中全般勘定高過ぎていい加減疲れます。

2022/2/20-2

夫婦寸景 in Japan now



自分が子供の頃には

旦那様が偉そうな顔をして前を歩き奥さんが控えめに半歩遅れてその後を歩いておりましたが、

最近ではどの年代のご夫婦も奥様が先頭を切って歩かれ、旦那が刑場に引かれる罪人かご主人様に仕える執事の如くスゴスゴと或いはあたふたとその後に付き従っている姿が随所で散見されます。

一方外国人のご夫婦はどの年代の方々も並んで歩かれておるようです。

そうした目で街中における記憶を辿ってみると我が国では少なくとも自分の記憶がある範囲ではこの60年程ご夫婦が並んで歩いている姿を余り見かけていない事に気づきました。

下町ではそうでもないのですが高学歴のご夫婦が多い山の手地区ではその傾向が顕著だったような気がします。

又一般的傾向として関東関西によらず下町のご夫婦では夫婦でご商売されている方の比率が比較的高く、山の手では奥様が専業主婦である比率が比較的高い様です。

こうした傾向は60年前の自分が子供の頃と今とを比較してもそれほど変化がない様な気がします。

それにしても山の手地区の高学歴のご夫婦、就中奥様が専業主婦のご夫婦の方々は何故夫婦そろって並んで歩かないのか？それが不思議でもあり、何故か又自分のイライラ要因の一つにもなっておりました。

それはまるで

「昔は男が前を歩いてたんだから、今度は女が前を歩く番よ」

とでも言いたげな様にも見えました。

表現は悪いですが恰も「江戸の仇（遺恨）を長崎で打っている」かの様に。

しかし、冷静になって考えれば親の世代は親の世代で決算。子の世代は子の世代でそれぞれ独立精算勘定である筈で、何も世代を跨いでスルーした差引勘定ではないのにその様子は世代を跨いでの帳尻合わせをしているが如くでした。

是等に対する自分の感想を纏めて申し上げますと

「インテリの方が根に持ちやすい。しかも決して忘れずに必ず意趣返しをする」

でした。

又傾向としてインテリ夫婦の方が横並び意識と申しますか自分の家だけ「下方差異に甘んじる事をひたすら忌み嫌う意識」が強く

表向きは「ひとさまの事には口を挟まない、の体」を装いながら、その実「鵜の目鷹の目、さても隣はいかなるものぞ」と常に他社比較ならぬ隣家比較のスペック○×表を頭の中に於いて一つでも自家に×が見つかるものならすぐ様スペック補填を行うという意味での横並び意識。

なので、他家の団様がポチ化しているのであれば

「すわ、当家も旦那をポチ化しないと隣の奥様に妻の力量を侮られる恐れがある」

とばかりに旦那様を早速ポチ化する。

そうして旦那様には

「世の中は男女平等、lady first なの。最近法律でもそう決まったの。周りのどこのご家庭もそうなの。家だけ昔の男尊女卑と言われていいの？あなたっ」

と専業主婦で高学歴の奥様は大学で得た「intelligence」をここぞとばかりにお使いになられる。

因みに専業主婦の3割はご主人が困窮しても働きに出る意思はないそうです

「イラッ!!」

2022/3/7

「妥協の産物」がとぼっちりの元？



「結婚なんて妥協の産物よ」

子供の頃よく耳にした言葉です。

しかし今思い返してみるとそれは現実世界で聞いた言葉ではなく TV 番組の中でよく耳にした事を思い出しました。

そういえばお袋からそんな言葉を聞いた覚えもありませんでしたし、叔父さん夫婦の叔母さんからも聞いた記憶がありません。

最近外国人と接するような生活になっておりますが、その外国人の奥さんからもそんな言葉を耳にした記憶もありません。

なので、あれは「話を面白くするためだけの昔のドラマ作術手法上の話だったのだろう」と思っていたのですが、最近現実観察をしていたところ実はそうではないことに気づかされました。

昨今では TV ドラマでも現実生活でも耳にしないこの言葉

「結婚は妥協の産物」

がなくなったのかと申せば現実にはその正反対。

「当時から無言裡に蔓延」していた此の感覚が更に深化蔓延し
余りにも当たり前

「今頃何言ってるのよ」

位の話でしかなかった事に。

一方この言葉を夫婦共に発しているのかと申せば旦那さん側からは殆どこの言葉は聞こえてこず主に奥さん側から密かに漏れ聞こえてくるというのも観察の結果でした。

「妥協する」を英語では compromise といいます此の言葉には「妥協する」の他に

「お互い中心線迄歩み寄る」

という意味もあります。

言ってみれば前者が

「満足したのではない。眼を瞑っただけだ」というニュアンスがあるのに対して
後者には

「お互い相手の言い分も尊重し一歩下がって共に譲り合う」
というニュアンスもあります（是なら夫婦円満になりそうです）
今回のお話は明かに前者。

「不承不承ながら条件を飲む」
つまり全然納得していない訳です。

「ならば結婚なんかしなければよかったのに」
となりそうですがそうはなっておりません。
ここからは推測ですがその第一の要因は

「結婚しないとみっともないから」
の様な気がしております。

なにせ外国では殆ど気にされていない「30歳の壁」のあるお国柄。
当時は「30過ぎたら売れ残り」と男性軍が言って憚らない時代でしたし。

一方女性陣の方は以前の記事でも申し上げました通り

親子両世代共々「恋愛結婚とはどのようなものか」を知らぬ儘「消去法による」条件選択結婚
を恋愛結婚だと思い込んでいた疑似自由恋愛結婚だった訳ですから、似て非なるもの由来
の「話が違うじゃないの」的「増幅不完全燃焼」故の大不満。

そんな結婚生活が「妥協の産物」に思えるのも無理からぬ事。

そしてここからが現下最大の問題点だと思うのは

ご主人が定年退職されて渋々飲んだ「消去法による選択条件が消えた」時
例えば

肩書

年収

見てくれ

が失せた時、ご主人はもう

面倒見るも鬱陶しい

「消えて欲しいだけのお荷物」

に。

一方ご主人は何故かそういった奥さんの理不尽にはモノ申さず、
代わりにその捌け口として利害関係のない第三者に対し
偉ぶって見せる。

国語辞典では是による被害を「とばっちり」と記して居た様な。

2022/2/25

生産者と消費者 1

(職場では生産者、家では消費者。同じ人の表裏)



「働き手である生産者の実入りが増えなければ、自分とその家族の使えるお金は増えない」

「お金の使い手である自分とその家族がお金を使わなければ、働き手の実入りは増えない」

働き手を経済学では「生産者」といいお金の使い手を同じく経済学では「消費者」といいます。

それを上の二つの文章に当て嵌めてみると「生産者」と「消費者」は同じ人間又は存在の「表裏」であることがお分かり戴けるとと思います。

処が我が国では何故か「生産者＝消費者」というこの「等式」が忘れ去られております。現下に於いてはコロナ禍による物流網の寸断、異常気象による作物の不作、地政学的な理由による（端的には戦争や陣営の対立）エネルギー価格の上昇、円安による輸入資材の物価高騰、働き方改革等による単位時間当たりの賃金の上昇などなど仕入価格や経費は大幅に上昇しているにもかかわらず商品への適正な価格転嫁がなかなか進んでおりません。

このように売値が上がらなければ天井が抑えられていることになりますから

利益＝売上－仕入資材価格（原価）－経費（人件費、光熱費等）

の式に照らせば企業が同じ利益を確保しようとする、仕入資材価格（原価）の上昇分を経費の削減で相殺するしかなくなります。

そしてこの経費の最大要素が「人件費」つまり「お給料＝実入り」です。

つまり会社経営者のみならず働き手である従業員も本音を言えば「解雇されない為」に「賃金カットに合わない為」にも売値を上げたい処でしょう。

しかし更に又逆に会社経営者からよりも現場の企画サイドから「値上げをすると消費者離れが起きる」「値上げしない他社に販売シェアを奪われる」恐れがあると待ったがかかり、値上げする前に企業内部の側で自粛自重してしまうのが大方です。

では、なぜこのような発想が、価格転嫁が進む外国に比べて我が国では起きやすいのでしょうか？

一つには好業績の時にも「危機時に備えての内部留保」を厚くするという理由で社員への還元分配が抑制される傾向にある事（わが国では一度雇用するとそう簡単には解雇できないという事情もあります）＝実入りが少ない

二つ目には国民の側に「備えあれば憂いなし」「石橋を叩いて渡る」「遊ぶは悪、働くは善」の総合体からなる「貯蓄性向」の高さがあります。＝財布の紐が固い

三つ目には「便乗値上げ許す、まじ」でしょう。

メディアは盛んにここをつつきますし。＝国民モラルの高さ

そして意外と見落とされているのが

諸外国に比して相当比率「専業主婦」の割合が高いことです。

「えっ、何？ どういう事？」

とお思いでしょうが、実はこれが結構利いているような気がしているのです。

特に戦後小学校に入学した世代や高度成長期を支えてきた世代、直近では団塊の世代など要するに現在の高齢者世代に於いて特に顕著な傾向です。

（続く）

2022/2/25-2

生産者と消費者 2

(同一表裏分断の怪)



専業主婦の「生産者と消費者」という側面からみた定義は

「消費者役した遣った事のない層」という事になります。要するに「一度も生産者になった事のない層」です。

以前勤めていた会社で「資材部畑（購買畑）のみしか歩いた事のない人物」が唐突に社長に就任して驚かされた事がありました。

「売った経験のない人が社長になって大丈夫なんだろうか？お客様の前で業者相手の癖が出て居丈高になり、重要商談や方向付けを誤りはしないだろうか？」
というのが心配の元でした。

案の定その元居た会社は大変な事態に陥りましたが。

そういった光景が随所に起こる可能性のある層なのです。

「生産者になった事のない消費者オンリー」の層は。

専業主婦層の比率が高い年代というのは、

一つは四大や短大を卒業しても全く社会に出ては働かずに自宅で「家事見習い」をしそのまま結婚をしたり、仮に働いても婿さん探しの腰掛だった「庶務」という存在であったりでした。

要するに大学や短大進学は自己実現や社会貢献の為ではなく「少しでも好条件で嫁げる嫁入り道具の一つとしてのお免状の獲得」だった訳です。無論全員ではありませんが。

そうしてこの「見かけインテリ女性」の大半は今でいう「意識高い系」でした。

二つ目はその彼女らのした結婚は「疑似恋愛結婚」であった事です。

何の事かと申しますとその親の世代の殆どが「お見合い結婚」で「そもそも恋愛又は恋愛結婚とはなんぞや？如何なるものなのか？」が全く分からない世代だったので、その世代の子である彼女らも親に聞いてもよく分らず親子共々分からない中でお見合い結婚の釣り書を参考にしてスペック○×表を作成。

其れを元に肩書バリューを第一にして探し、次善の策としては欠点排除の消去法に頼って選別作業を行い、最後は其中で「一番高値で自分を買ってくれる人」を相手を選んだ。つまり「恋愛の熱」とは全く無縁な「マーケティング結婚」だった訳です。

しかし彼女らはそれを「自由」恋愛結婚だと信じて疑わなかった様です。

なので、筆者からすれば「疑似恋愛結婚」だという訳です。

そしてこの結婚は「職場では生産者である旦那さん」に大きな影響を与える事になります。

まず専業主婦層は働いた事や責任意識をもって働いた事がほぼ皆無でしたから生産者の苦労などわかる筈がありません。

一方では大卒のインテリ層でもありますから変にマーケティング知識もあって（消費者）意識高い系ですから

「お値段以上●●●」

みたいな理屈を振りかざします。

「安くて良いのが商品としてはもう must よね」

確かに安くていいものはいいのですが、その実現には当然、限度があります。無際限ではあり得ません。

しかしそんな事には耳を貸さずに「取り敢えず言うだけでも」位の軽いノリでポンポンそこいら中言い放つ訳です。

そしてそれがいつしか「動かしがたい真実」となって我が国に定着してしまった。

（続く）

2022/2/25-3

生産者と消費者 3

(表裏一体の断を止めるもの誰もおらず)



では職場では生産者である旦那さんはその誤認識を改めさせるべく「お諫め申し上げなかつた」のでしょうか？

諫めなかったのです。誰も。

どこのインテリ層家庭でも。

物の見事に黙っていたのです。

稼ぎ手である旦那さんは。

まず、男の側に意識は「恋愛結婚をしたつもり」だったのですが、先にも申し上げました通り女の側の意識実態は「疑似恋愛結婚」でした。

結婚後旦那さんはその事実に遅ればせながら気づいたでしょうが、世は「戦後強くなったのは女と靴下」に代表される様に世を上げての女性上位時代。

それには戦前、男性に我儘放題をされた事への意趣返し、埋め合わせ請求とともとれる側面もあり、男性側にしても「その事への負い目を感じていた」ので弱みを握られ押されるがままの状態でした。

それやこれやもあって奥さんに「自分に対する恋愛感情が殆どない事」に気づいても戦前のように三下り半を突き付ける訳にもいかず、結果それとは正反対の行為に出たのです。

何かと申せば

「選択肢の条件を言われる通りすべて無審査無批判無条件に受け入れ、尚且つご機嫌伺と「気の利く旦那さん演出の為」頼まれもしないオマケ迄つけてクリアーし」「本気で愛してくれる」事を求めての涙ぐましいばかりのご機嫌取り。

そしてその裏には「愛して貰えないのは飲むとしても、それを越えてもし奥様から捨てられたらどうしよう？」という想像するに恐ろしい恐怖。

結果旦那様は生産者の苦労を言うに言えないまま、

「そうだよな。そりゃそうだわ」

と返事せざるを得なかった。

又旦那さんにも事情がありました。

それは

奥様に抑えられた売値への価格転嫁。

会社からは利益の確保が言明されている。

結果板挟み状態のジレンマ地獄。

それでやむに已まれず価格は維持したまま禁じ手の

「工程の端折り」「顧客に気づかれなくば、よしという見かけの質の維持（＝実質的な質の低下）」を使う。

その手口に身に覚えがあるものですから他社もきっとそうだろうと勘ぐって

「どうせ安かろう、悪かろうに決まっている。見せかけだけの商品に決まってる」

とばかりに断を下し、安くても購買意欲が上がらない。

結果適正価格転嫁は起こらず給与も上がらず、商品の質は落ちるばかり。

残ったのは解雇と奥様の不機嫌由来の恐怖の二輪車だけ。

さても両親に元気がなく、当然その子らにも元気がない。

そして社会的に残ったのが「デフレスパイラル」の失われた 30 年。

大昔ギリシャのある哲学者がこう申しました。

「お金は使わなければ入ってこない」

是が正しいとすると

いうべきは

経営者の方も

奥様も（特に専業主婦）

旦那様も

お金を使いましょう。

経営者は給料に

奥様は「愛する生産者である旦那様の為にも」（愛情を持ってあげて下さい）

そして旦那様は「手抜き、質下げをしない司法品を作ってそれを買う」

事に。

2022/3/8

インテリ然と？



折角受けた高等教育の成果使用先に公私の選択すらせずいきなり自身の栄達やひけらかしの道具として使い始め公の為に資する事を考えもしない。そのくせ表向き「御為（おんため）」と遜ってみせその実態は実は「ごかし」

裏は優越意識満開

是は昨今のインテリ像。

そも「インテリ」は和製英語の様で外国人に

「インテリは好かん」

I don't like "INTELI"

といっても

What?

でした。

結果、未だ妥当な英訳が思い浮かびません。

強いて言うなら

I don't like analyst

I don't like commentator

と職種を一つ一つ言うか

I don't like only by mouse guy（口先野郎は好かん）

I don't like tyrant behavior guy（エラソな奴は嫌いじゃ）

とインテリの嫌な面を

是又具体的にキャラを示して言うしかないのかな？と。

話は変わって我が国ではインテリを別表現で「知識層」とも言います。

「先生、センセ」の政、法、学、医界の雲上部。

「担がせた神輿の上から目線」族です。

一方インテリの語源である英語 intelligent、intelligence の本来の意味は「知性（的な）」です。

御覧の通り「知識」という言葉は出てきません。

第一「知識」と「知性」は全く別物です。

知識があるからと言って必ずしも知性があるとは限らないからです。

我が国では知識ばかりあって知性のない人の事を「教養の俗物」ともいいますし。

以下は自分がよく使う式ですが

知識 X 経験 = 智慧（知性）

であるとすれば

知識獲得の目的が「私利私欲や自分の都合」に根差したものであれば経験を積みば積む程その集積結果は「悪智慧」にしかならないという事になりそうです。

逆に言えば「公に資する」事を目的として経験を積みば其れは智慧（wisdom）になると。

本来はそうあってほしいのですが現時点では前者の方が圧倒的に優勢の様です。

この傾向を我々は肌感覚で理解しているので「インテリが好きではない」のだと思います。

大卒を一括して「インテリ」と呼ぶなら自分もインテリの端呉ではあるのですが

「あんた、インテリやぁないの」

と言われると何かとても複雑な気分になります。

話がそれました。

基。

そういえば最近 AI（Artificial intelligence 人工知能）が話題になっております。

ここでは intelligence は「知性」ではなく「知能」と訳されております。

昔話ですが自分が子供の頃に IQ テスト（知能テスト）というのがありました。

スコアが余りにも悪く

「やっぱオメ、アホやねんなぁ」と友達に言われたトラウマからでしょうか

今思い出してもブルーな気分になります。

又々話が逸れてしまいました。

処で IQ をフルにすると Intelligence Quotient（知能指数）となります。

内訳は生活年齢指数 + 精神年齢指数だそうです。

AI の訳語として「人口知性」は流石に変ですが、知能の内訳が上記だとすると「人工知能」というのも何か違和感を覚えます。

何故なら機械には生活も精神もないからです。

となると AI とは一体何なのか？

余りにも安易に "intelligence" の語を当てたが為の見過ごしや思い込みがあるかも。

此の疑念には価値があるかも。

反面、今迄一度も疑いもしなかったが故に却って「難問」
面白くなって来ました

2022/2/25-4

意外なサバイバル要諦の元 1

（食わず嫌いすべからず。マーケティングの元は軍事兵法に在）



軍事兵法に興味を持ったのは商品企画担当になってからでした。

その当時の部長が部内会議で

「商品が武器である。会社の命運を左右する故、真剣に作り前線への供給を決して絶やす事があってはならぬ」

という訓話があり、それからでした。

それを機に戦時中元々外交官志望の学徒で海軍軍人として応召された父が、中学時代、自分に謂っていた話を思い出しました。

「軍事兵法というのは何も鉄砲や大砲の打ち方を学ぶ事でない。

軍事兵法の要諦は

「戦わずして勝つ」

是に尽きる。被害を最小限にするのが要諦だ。

最良は

「敵を味方につける」

（敵を作らないのではなく、敵さえも取り込み共に活かす）

だ。是は外交。

次善の策は

「無血開城」

是は情報戦や経済戦。

そして最大の愚策は

「直接戦闘」即ち「武力戦」だ。

是は人的被害が大きい事は勿論、掛かる戦費が半端じゃない。

なので、賢い為政者は必ず「直接戦闘＝武力戦」は避ける。

だから現代において最も多い形は次善の策の情報戦と経済戦だ。

人的被害の最小化とコストセーブの面からそうなる。

鉄砲や大砲を打つ事だけを戦争だと見ていたら大きく間違う。

戦争は常時随所で起きている。

兎に角要諦は「戦わずして勝つ事」で「敵を味方につける事」だ。

それだけは覚えておいた方がいい。どんな職業に就くにせよ必ず役に立つ」

そういう目で今一度商品企画、就中マーケティング手法を見直してみますと確かに随所に軍事兵法を彷彿とさせる断片が転がっておりました。

「誰も目を付けていない、まだ競争相手のいない分野を探し出せ」(創業者利益戦略)

「相手がそんな事をしてくる筈がない。まずそれは外せという処こそが最も有望だ。想定外こそ狙い目だ」(信長鶴越え桶狭間戦法 他社戦略)

「好きな球が来るのを待っていたら試合は終わってしまう。予想できない球筋を手元 0.5 秒前で瞬時に判断して打ち返す。それを可能にするのは日々の練習。だから失敗してもいい、先ずは作る経験売る経験をしろ」(イチローの言のアレンジ)

「今あるものを活かす。地の利、時の利を活かす。自力努力だけではダメだ。半分手がついたら過ぎない。残り半分は天与の物。

まずは位置するポジションの長所短所を見抜け。気力体力時の運。待てば海路の日和あり。次には時期の到来を待つ忍耐力も大切だ。

結婚式の後に届いた wedding cake に意味がないのと同様、追い風が来ない中で幾ら權を漕いでも疲れるだけで先に進まないのと同じだ。

又風上に位置するか風下に位置するかで取る戦略も変わってくる。地を知り、その不利を排してその立地が持つ利を最大限に活かす」(地政学及びジャストタイミング戦略)

「マネジメントとはいざという時に何とかする事で日々の管理をする事ではない」(マネジメント論)

等々

将に軍事兵法のオンパレード。

「いい着眼点を貰った」

何か酷く得した気分でした。

(続く)

2022/2/25-5

意外なサバイバル要諦の元 2

(現代マーケティング、逆の弊害)



マーケティング理論と実践が軍事兵法に端を発していると理解したのは30代前半の事でしたが、現在60代も最後半になって見えてきたその形は、逆に生みの親である軍事兵法の質を変える様なものにも見えてきました。

つまり情報化、IT化が進みビッグデータとその活用が示す様に、現代マーケティングに於いて我々「人間」は「全人各的な存在」として扱われなくなり、ターゲットの絞り込みとその効率化、最大効用化の名のもとに人間を個々の「属性」に毎に切り出し、具体的には性別、世代別、年収別、居住地域別、階層別、趣味嗜好別などなど部分（目的別有効部品）としてしか見られなくなり、又興味を持ち得なくなりつつあります。

この元は「数値化」です。

情報処理、IT処理の為に全てが符号化即ち数値化されてしまう訳です。

そうしないと大量の情報処理できないからです。

現代においてそれ抜きでは語れないインターネットはもともと軍事用途で開発されたものですが、同じくそれ抜きでは語れないマーケティングの分野との相互浸透作用で軍事面でもマーケティング的手法の流入がかなり進んでおります。

軍事面においても既に「全人格」というものはなくなり全てがその「属性」に分解されており、とすると人と物の区別さえなくなり人品共に「有用符号」「無用符号」「有害符号」「無害符号」といった様なもので管理される様になっているのかもしれない。

要するにマーケティング面においても軍事面に於いても「生身の全人格的人間」というものが薄れつつある様です。

もっと端的に申し上げればプラス（+）の符号は「儲かるもの」マイナス（-）の符号がつけば「損をするもの」「儲からないもの」という具合なのかもしれません。

そこで疑問です。

「一体我々は誰の為に、そして又何の為に日々この様な事に血道をあげているのか？」

更に

「是の行き着く先は何なのか？」

という疑問です。

「一体我々は何をやっているのか？」

「やっている事が分かっているのか？」

でもあります。

はっきり言って自分には

「さっぱり分りません」

分らないので、何が起きるか怖くてならないのです。

我々の行き着く先にどんな世界が広がっているのか？

物凄く嫌な予感がしております。

「戦わずして勝つ」

の軍事兵法の要諦の次善の策として「無血開城」の手法である情報戦、経済戦が現在続いている訳ですが、

疑問に思うのは

「この様な勝ち方で戦わずして勝ったとしてそれが何になるのか？」

マーケティングにおいても軍事兵法においても「勝つには勝ったが誰も幸せにならなかった。そこには全人格的存在の人間が一人もいない世界が広がっていた」

様な事になって、何がいいのか？何が面白いのか？

やはり

「さっぱり自分には理解できません」

地の利、時の利、天地運航の流れを無視して「我利我利亡者の我欲」が跳梁跋扈している様にしか見えないのですが。

2022/2/25-6

意外なサバイバル要諦の元 3

(軍事兵法はサバイバル術の粋)



軍事兵法というと鉄砲や大砲を想像して物騒なものだと思ってしまう。

又

サバイバルというと流れ着いた孤島で所謂サバイバルナイフを片手に獣を仕留めて肉を食らい、泥水をろ過して水を飲み、植物を食んで生き延びるといったような「野人」の姿を思い描いてしまう。

いずれ物騒だし、到底今後の人生において縁がなさそうな話だと思う我々。わが国国民。

「全ては対岸の火事」

しかし諺が示す様に

「天災は忘れた頃にやってくる」

のも、是又、歴史科学的事実。

災いが災いであるのは、前例が全くなくそれを予知するのが不可能で、突然起こるからこそ災いとなる訳で、そう考えると明日何が起こっても不思議ではないとも言えます。

「歴史はあり得ないと思っていた方向に動いていく。望んでいない方向に流れていくのが常」

の様にも見えます。

最近の我が国をはじめとする世界情勢において、

いざとなると国も当てにならない。

公的機関も機能しない。

勤め先も意外と疎遠。

お金や財産等、平時の宝も危機の前には無力。

自然だけは変わらないと言われ不変のものだと

思われていたその自然の運行すらも怪しい限り。

要するに不動不変且つ全般の信頼を置ける「寄らば大樹の大傘」なるもの等何一つなくある日突然大傘が外れて、上下左右の天地が揺れ出すが如くの状態の到来。

換言すれば

「何が起きてもおかしくない世界」

がわが身の横にぱっくりと口を開いて常時常態としてあった事を思い知らされている訳です。

つまり

「対岸の火事、気が付けばいつの間にかに此岸の火事」

状態になっている昨今。

となれば矢張

「いざとなれば自分とその家族は自分自身で守らなくてはならない」

認識にもなろうかと思われます。

そしてその時役に立つのが軍事兵法の考え方でしょう。

何故なら軍事兵法というのは先人が長い年月かけて作り上げてきた

「命がかかった極限状態における生き残り、生き延びる術（すべ）の集大成だから」

です。

「危機管理の極意」

だからです。

あらゆるケースを想定する。

想定して可能性をシミュレーションする。

可能性の優先順位をつける。

無い物はない。無い物ねだりをしても仕方がない。救援を待っていては間に合わない。

だからあるものだけで何とかする。又はあるものを積極的に活かす。

100%の完成を待つリスクより、50%の完成度でも判断し、即動する経験則智を積んでおく。

等など。

サバイバルとはある種

大傘の庇護を離れて各人が

「誰のせいにもできない個人事業主になった様なもの」

であるのかもしれません。

なので、その窮地を脱してそれを経営に活かさえすれば、かなりの人が「いい結果」収められる様な気がします。

自分もその一人でありたいと願っているのです、それを糧に何とか今を凌いでいる訳でご座います。

2022/3/1

in front of our restaurant 1



In front of our curry restaurant in Japan today.

2022/3/2-2

In front of our restaurant 2



In front of our curry restaurant in Japan today No.2

2022/3/3

In front of our curry restaurant 3



In front of our curry restaurant today in Japan No3

2022/3/3-3

Have you ever been



外国のある方から

「君はウクライナに行った事があるの？」

という質問をされました。

多分ここ数日ウクライナ国旗の映った店舗前の写真を投稿していましたので、それをご覧になられて

「何で又、縁遠い日本の、それも片田舎(?)でそんな事、しているのだろう？」

と不思議に思われたからだと思います。

因みに英語で「行った事がありますか？」

は

Have you ever been ….

です。

これは中学の2年か3年生時に完了形の中の現在完了形のバリエーションとして習います。

正確には

「行った事がありますか？」ではなく

「(今迄に) 居た事がありますか？」

でしょう。

往々にして

Have + 過去完了形は「～して「い」た」と訳されるからです。「い」で、ある程度時間の継

続を表している訳です。

さて今日のメインストーリーですが、
その方に以下の様な返事をお返し致しました。

Yes. I was a student in Russian literature in Waseda univ. 50 years ago. At the time as a tourist have been in Kyiv 3days. Very beautiful city was, but now destroyed by bombs

Very, very, sad and feel angry

(ええ。自分は 50 年前に早稲田の露文科の学生でした。その折旅行者としてキエフに 3 日程滞在しました。とてもきれいな街でしたが今では爆弾で破壊されております。

とても、とても悲しく怒りを覚えます)

I heard from and watched on TV news show,

Young Ukraine who lives abroad decided to return to Ukraine for fighting.

And ladies in Kyiv started to learn about using way of machine gun from soldiers for fighting.

And additional on, a very little child said we are leaving away Ukraine but my Dad said will stay and fight for guarding our home country. He, little child was crying with tears fully on his eyes. I no hate Russian people, but never can accept Putin.

(テレビニュースで、

外国で暮らしている若いウクライナ人は戦うために故国に戻る決意をした、

とか

キエフの女性は戦うために銃の操作を兵隊たちから習い始めた

とか

とても小さな子が

「僕たちはウクライナを後にするんだ。でもパパは故国を守るために残って戦うと言っていたんだ」

その幼子は目に一杯涙をためてそう言った

とかを

ニュースで見ました。

ロシア国民を憎んだりはありませんが、プーチンを受け入れることはできません)

Around our restaurant, many Ukraine IT engineers of Rakuten company had lived, but almost them moved to Tokyo area before Putin shock. They are vegan and vegetarians and always bought our vegetable curry takeout.

(当店の周りには楽天に勤めている IT エンジニアがたくさん住んでいました。でも大方の人達はプーチンのウクライナ侵攻が始まる前に東京地区に引っ越していきました (まだ何人かは残っていますが) 彼らは皆ベジタリアンで、いつも当店のベジタブルカレーのテイクアウトを買っておりました)

と。

2022/3/5

要再考「坊主憎けりゃ袈裟まで憎い」？



以前の記事で「軍事兵法は正しく認識して使えば色々な面で極めて有用なものになり得るから、まずは食わず嫌いをせずに紐解いてみる必要がある」

と書きました。

その根拠としては軍事兵法が鉄砲や大砲の打ち方を学ぶ殺戮の法ではなくその芯は戦闘回避の非戦の法である事に由来しその認識の改めがまずは必要であろうと。

又

「軍事兵法の要諦は戦わずして勝つ」事だとも申し上げ、

その次段では

「戦わずして勝つ事の最良は敵（方）を味方につける」事だとも。

是に従えば在外の善良なロシア人を無暗に誹謗中傷しいじめるのは最大の愚策である事に気づかされます。

何故なら意外に思われるかもしれませんが現在「蛮行」を繰り返す彼の国の「独裁者」を止められるのは自国民であるロシア国民だけだからです。

蛮行を止められるのは諸外国でもなく侵攻されたウクライナでもなく偏に自国民であるロシア国民のみ。

具体的には自国民がこの「独裁者」に NO を突き付ければ此の「独裁者」の侵攻の唯一の根拠である「自国民の支持を得て自国民の為に」という「大義名分」を失わせる事になるからです。

「独善、独断、独裁」を鮮明化できるからです。

それにも拘らず諸外国内で暮らす善良なロシア国民を虐めれば本国内のロシア国民の反感を買い、逆に「矢張り我々の国家元首が言っている事の方に理がありそうだ」と「独裁、独断専行」による侵攻を正当化する事になり、更に進んで「独裁の後押し利する」事にも成り兼ねないからです。

「坊主にくけりゃ袈裟まで憎い」は「過ぎたるは及ばざる」が如き愚策。

更に進めば「人を呪わば穴二つ」にも。

なので、罪なき海外在住のロシア人を、只ロシア人だというだけで無暗矢鱈といじめるのは敵を味方につける上での「最大の愚策、愚行」だと申し上げた訳です。

そして前回「敵を味方につける」方法としては「外交」だと申し上げましたが、

「結局各国の為政者同士による外交は無効だったのではないか」とおっしゃる方もおられるかもしれませんが、何も外交は為政者間同士の専売特許でも何でもなく、法より更に自由で且つ重みのある「道義」に基づき、それを原動力とした「民間外交」という手段もある訳です。

思うにその「民間外交（手助け、声上げ）に基づく人心の圧力」こそ、今回最有効手段として効力を発揮しつつある様にも見られます。

Swift を初めそれらの諸措置を発動させたのもこの「道義に基づく憤りによる民間の力」だった様に思われます。

その力を最大に限引き出す為にも「坊主憎けりゃ袈裟まで憎い」に等しい行為は厳に慎む。

今我々の為すべきは自国内で自らの指導者の行為を恥じている人々の後押しに集中し、其を妨げる「善良なる在外同国人を虐める」等の要素を極力減らす努力。

迂遠な方法かもしれませんがそれが遠方に居てウクライナをサポートできる我々の重要且つ有効な手段ではないでしょうか。

2022/3/6

shame

SHAME ON



YOU!

Shame on you.

邦訳すれば「恥を知れ」です。

今日某サイトでニュース記事を見ておりましたらプラカードにそう書かれておりました。

或る独裁者の蛮行に対する自国民の抗議のプラカードでした。

自分の経験からすると外国人が「恥」という言葉を使うのをあまり聞いたことがなかったの
でちょっと意外な気がしました。

外国人が使う場合の「恥」は、我々日本人にもなじみ深い「シャイ」

例文で言えば

He is shy

(彼は恥ずかしがり屋さんなの)

という意味での「恥」位でしたから。

この場合の「恥」は「恥」というよりも「臆病」とか「引っ込み思案」要するに「臆する」
「後ずさりする」という意味合いが強く「名誉」や「外聞」の棄損といったニュアンスは含
まれていません。

もし、今回の某独裁者の蛮行を恥ずかしく思っている自国民の気持ち

つまり「自分は恥じている」とか「恥ずかしく感じる」という意味の「恥ずかしい」をいい
たければ

I feel ashamed

とか

I'm ashamed

になります。

しかしどうもこの「恥」の（或いは恥に対する）感覚が日本人と外国人ではかなりの違いがあるように感じます。

外国では「恥」という言葉は滅多なことでは出てきません。非常に稀です。出てきたとすればよっぽどの場合です。今回の某独裁者の蛮行時のような場合だけです。

（特に「恥」という言葉を自己肯定感の強い外国人のメンタル構造からすると「自分に向けること」は本当に少ないのです）

しかしわが国では行住坐臥、一挙手一投足にこの「恥の感覚」或いは「恥（恥ずかしい行為）のチェックという目線」がほぼ日常的に、どぎつい言い方をすればほぼ「恒常的監視レベル」でついて回っているような気がします。

（そしてそれは、人がチェックしているというより、自分自身が他人目線に成り代わって常に自分が自分を見張っている（チェックしている）というのが実態のような気がします）

自分は以前に 12 年間に及ぶうつ病罹患経験をしましたが、今思うと

「この日本人特有の「恥と外聞」「未完に対するほぼ罪意識同レベルの縛り」が如何にその回復を遅らせていたか」

を感じます。

実際に回復軌道に乗るにあたっては何のことはない、この

「恥と外聞を捨てる」

即ち

「恥も外聞もありやしねえ。そんなの知った事か。何とでも思ってくれ」

と他人目線と、自分自身が抱えていたチェック目線に対して開き直った途端、物凄く気が楽になり、1 か月もたたないうちに 12 年に渡って蓄積され「もうどうにもならない」と思われていた「抑うつ状態」が悲惨霧消してしまいましたから。

No need feeling ashamed, no need monitoring my own style by other`s eye.

Get away!!

Let you think (=regard to) !! As you like.

That`s all.

注)

ここでの you には others（他人様）の他に my own monitoring eye（自分自身の監視の目）も含まれております。

2022/3/6-2

恥と外聞



前回の記事（拙著「続 うつ病ドロソバツ読本」内 後日刊行予定）で

「恥も外聞もありやしねえ」

と開き直った途端、背負っていた重荷が飛散霧消したというお話を申し上げました。

今回は、その因果関係と申しますか構造と申しますか、よくわかりませんがそのあたりを今少し紐解いてみたいと思います。

まず「恥」ですが、恥の反対語を考えてみますと「名誉」という言葉が思い浮かびました。

「恥」の反対は「名誉」

だとすれば

「恥とは名誉に届かない状態」

「名誉を手に入れたくても手に入れられない状態」

とも言えそうです。

要するに

「未達を恥ずかしいと感じる状態」

です。

因みにここで申し上げている「名誉」とは何も勲章とか表彰とかではなく、もっと一般的に

「人気を得る事」であるとか「期待に応える事」であるとか「人から憧れられる、一目置かれる」などを意味しております。

さて、余談はさておき

同じ様に「外聞」

これをまず「外見」と言い換えた上でその反対語を思い浮かべてみますと

「内心」

という言葉が浮かび上がってきました。

是又要するに

「内と外」

の対比です。

対比という以上、それは内と外が

「違っている」「合っていない」

事が前提になります。

つまり「差がある」訳です。

以上のことを踏まえて再度「恥と外聞」をスルーして考えてみますと

「名誉に届かないみっともない状態を外見だけ繕う状態」

その時に起きる

見せかけから生じる

「虚しさ」「気疲れ」

いつ見破られるかわからない不安定な落ち着きのなさから生まれる

「不安」「恐怖」

内と外が違っているにも拘わらず無理に整合性を取ろうと刻一刻内外を行ったり来たりする調整作業に追われることからくる

「疲労困憊」

以上が嫌さに相手となるだけ接しない様にする

「浮足立ち」「気もそぞろ」「心、其処になし」「常に半身構え」「逃げ腰」「回避と逃避」

是の総合集積値が

「重荷の正体とそのレベル」

ではないかなと。

そもそも全ての起因となっている「名誉」というものは

長い努力に対して人さまが

自然と「評価し授けるもの」即ち自分の行いの後からある日突然

「トントン、こんにちは、とやってくるもの」であって

常日頃からとっ捕まえてやろうと意識して「追いかけまわす類のもの」ではない様な気がします。

第一「名誉」は前を歩いていないのですから。後ろからくるのですから。

そこを間違えてしまいますと「あり得ない事象を追いかける事」になりますので、それこそ

「永遠に未達」

「暖簾に腕押し」「徒手空拳」「二十日鼠の空回り」「シーシュポスの神話」

等にみられる「無限徒労行為」にしかありません。

将に

「亡霊に恋する様なもの」でしょう。

そこに気づいて追いかけるのをやめた時、
具体的には

「自分は名誉に値する様な人間ではない。只の市井人に過ぎなかった。それでいいではないか」

そう思った時、「恥と外聞の亡霊」という憑き物が「ストーン」と落ちた気がします。
今思い返してみると。

2022/2/26-1

怯え、無理からず



現役時代

「死ぬ迄に幾らお金が必要か？」

そして退職後

「後、幾ら残っている？」

是では元氣の出る筈がありません。

そんな暮らしが嫌で事業を始めたのですが、従業員に給与を支払うと残りは常にマイナス勘定。結果二か月に一度支給される年金の、事業でのマイナス勘定補填分を除いた残りの金額で何とか暮らしている始末。

しかしそれでも「いつか元は取り返す」夢を糧に「残りあと幾らある？」に戦々恐々とする生活に戻ろうとは思わない。

仕事の無理が重なって体調もかなり悪いのですが、それでも「年金と不調個所の数自慢話」に加わるつもりはない。

とかなり大見栄を切って強がっていたのですが最近事業損益と体調悪化のレベルが洒落にならない程悪くなり将来不安に駆られております。

「そら見た事か。幾ら若ぶったって結果は同じよ。若ぶった分存続期間が短くなるという自業自得の好例だわ」

という声がそこここから

「う～む」

ですが会社を辞め起業する折、何の迷いもなかったのです。というより気が付いたら自然とそうになっていた。もっと言えば何の興奮も盛り上がりもなく 2 月 20 日の次は 2 月 21 日みたいな感じで時計の針が回ってしまったような感じ。

要するに余りに自然で迷いもなかったので躊躇や再考の切掛けとなる気付きを促す「蹴躓きの小石」さえその平坦な進路上には落ちていなかったのです。

「知らぬ間にリスクテイクしてしまっていた」

しかも気づいたのが 8 年後のつい最近。

「時既に遅きに。是はもう前へ歩を進めるしかない」

半ばヤケクソ気味の負け惜しみに謂う訳でもないのですが、

「座して死を待つよりは 1%の可能性に掛けて打って出る」

「何故？」

「お宝はリスクの河の向の彼岸にあるからだ。お宝は自ら舟を漕いで此岸には渡ってこない。幾ら希って（こいねがって）も渡って来ぬのだからこちらから出かけていくしかないことになる」

「河に吞まれて命を落とすよりはましだろう。死んで花実が咲く、はなし」

「だとて「待てど暮らせど来ぬ人を宵待草のやるせなさ」と嘆いてばかりもおれまい。やるだけやって後は天に任せる。他に妙案はあるまい。では」

「気を付けて行かれよ。陰ながら無事だけは祈っておる」

「かたじけない。そこ元も達者で、なっ」

何やら巷談紛いになってしまいました。この辺で止めておきましょう。

本筋へ基。

元気の出ない元が何かといえば「残りあと幾ら」への怯え。

競技に例えて申せば

「ゴール迄残りあと幾ら」の常時「未達減点思考」

換言すれば最大やっても最高 0

後は常に「未だか、未だか」と追立てられる。

しかもゴールは一つ。

たった一つでは選び様もなく「すがり付く」しかない。

それが競争過多、排他、他者不信の元凶。

是では元気が出る筈もなし。

故に此処は「ゴール命」の思い込みを先ずは取払い

「兎に角行ける処迄でいいから」

という「日々追加算評価」に変えるだけでもやっておく必要がある様に思われます。

(著者プロフィール)

うときゅう いっき

本名 宇都宮一貴 (うつのみや かずたか)

一九五三年東京生まれ。早稲田大学第一文学部ロシア文学科を二回留年の後、卒業。大手電機メーカー商品企画部に二十年間勤務。同子会社経理部等に十六年間勤務。四十歳から五十二歳まで十二年間重度うつ病を罹患。左遷、リストラ、降格、離婚、家族崩壊の後、生還。定年退職後、嘱託社員契約を辞して株式会社うとQを設立。趣味は観察すること、考えること、書くこと、カメラの四つのk。著者名は苗字、宇都宮一貴の音読みで、中学校時代の仇名に由来する。

宇宙の「う」

東京都の「と」

宮殿の「きゅう」

数字の「いち」を詰まり音便で「いっ」

貴族の「き」

で、うときゅういっき となります。漢字にするとかなり御大層な名前に見えますので、敢えて音読みひらがな表記にしております。

ホームページ：<http://utokyu.co.jp>

(出版情報)

著 者 うときゅう いっき

発行人 宇都宮一貴

発行所：株式会社うとQ

〒二一五・〇〇一八

神奈川県川崎市麻生区王禅寺東5丁目34番7号

電話：〇四四・九八九・一六九八

発 売 株式会社 うとQ

編 輯 ナレッジフォレスト (大竹鉄哉)

カバーデザイン&DTP 製作 ナレッジフォレスト (大竹鉄哉)

©Kazutaka Utsunomiya uploaded in japan 2020

発行日：二〇二二年三月十二日 初版発行

本書の一部または全部について、著作権上、著作権者の承認を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。

(その他著書)

●「人生終わったなと思った時に読む本」(二〇一五年刊 ソフトカバー在庫僅少)

●「人生終わったな」と思う間もなくトンネルの闇を抜けて広野原 (二〇二〇年刊 amazon

kindle)

●「コロナ禍 同時進行執筆 ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」二〇二〇年壹月の巻～十二月の巻」(二〇二〇年刊 amazon kindle)

●「コロナ禍 同時進行執筆 ナマステ別館堂主人「二年目の ニューノーマル探索サバイバル日記」二〇二一年一月の巻～十月 最終巻」(二〇二一年刊 amazon kindle)

●コロナ禍 初年度 カリー屋ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」(二〇二一年刊 amazon kindle)

●(初本) カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集「冬のひまわり」(二〇二〇年刊 amazon kindle)

●(改訂本) カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集「冬のひまわり」(二〇二〇年刊 amazon kindle)

●コロナ禍カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集「子、親を選べず」三部作(二〇二一年刊 amazon kindle)

●コロナ禍カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集(合本)「子、親を選べず」新四部作(二〇二一年刊 amazon kindle)

●コロナ禍 カリー屋ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」二〇二一年 上半期(合本)
(二〇二一年刊 amazon kindle)

●コロナ禍 カリー屋ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」二〇二一年 度(合本)
(二〇二一年刊 amazon kindle)

●ネパールカリー屋「ナマステ」別館堂&英語教室「すすき野留学」主人
辞書を置かない考える英語教室「前座の英語」Pre & Prep. English 第1集～第7集)
(二〇二一年 ～ 二〇二二年刊 amazon kindle)

●線路は続くよ、何処までも 野を越え山越え谷越えて その一、その二
(二〇二一年刊 amazon kindle)

●線路は続くよ、何処までも 野を越え山越え谷越えて 合本
(二〇二一年刊 amazon kindle)

●短編小説「明暗明暗」
(二〇二一年刊 amazon kindle)

●うつ病ドロップ読本
(二〇二二年刊 amazon kindle)

●改訂原本「声あげ」Is it yrue?
(二〇二二年刊 amazon kindle)

●尚、掲載写真は全て google 画像サイトの著作権フリーのものをダウンロードして使用しております。当社には著作権、版權は全くない事を明記させて戴きます。